

「自信」について (I)

—文教大学人間科学部学生を中心に—

上 杉 喬

A Study of Self-Confidence (1st report)

—Mostly on the students of the Faculty of Human
Science, Bunkyo University—

Takashi Uesugi

It is well known that self-confidence is very important in our lives. A man who gains confidence in himself should be able to try again and again, and to win in the end, even if he had once failed. On the other hand, a man who loses confidence in himself thoroughly will not be able to succeed in most cases, even if he were easily able to under ordinary conditions.

According to image theory, self-confidence is an affective imagery which we continue to feel as long as we live and face difficult situations. Like other affective imageries, the self-confidence image is formed through our whole experience. That is, the self-confidence image is formed by integrating the individual confidence image to a specific event and experience. There are two purposes in this study; 1) to know the level of the self-confidence image of the students of the Faculty of Human Science, 2) and to test the relational confidence image's relationship to the self-confidence image.

The results of this study show that the level of self-confidence of the students is low, and that self-confidence is intimately related to each individual's confidence in his/har MOTHER. The relation to MOTHER shows high correlation to the self-confidence image ($R=.697$), and shows significant correlation to many other individual events. On the contrary, the relation to FATHER shows no-correlation to the self-confidence image on other individuals. These results suggest that in the formation of the self-confidence image the relation to MOTHER is very important but that to FATHER is not.

はじめに

日常生活において重要性が認められている心

理的状态でありながら、実証的な心理学研究のほとんどなされていないものは少なくない。

本研究における「自信」も、その1つである。

われわれの日常経験において、人が「自信」をもって事態に立ち向かう場合と、反対に「自信」を失くしての場合とでは、その結果に多大の違いの出ることが知られている。自信喪失の状態では、普段なら楽にこなすことのできる事でも、失敗してしまうことが多い。この状態の場合、まずできるという気がしないのであり、従って事態に立ち向かう意欲もわかない。やって見て失敗しても、むしろ当然で、できない事を確認し、ますます自信を失なう、それ以上再度立ち向かう気力も意欲もわかなくなるのである。

これに対し、自分自身（の能力や行為）に「自信」を強く抱いている人では、途中で失敗をしても、その「自信」に支えられて、さまざまな工夫をもちこらし、ねばり強くチャレンジし、ついには成功を得る。こうして、ますます「自信」を強め、さまざまな事態に意欲的に取り組むようになる。創造的な仕事を成し遂げた多くの人は、自己に対して強い「自信」を抱いている。これらは、人が生きて行くにあたって、「自信」のもつ重要性を示している。

ところで、「自信」は、持続的な感情状態であり、自己についての「感情イメージとしての自信イメージ」（すなわち、自己の能力や価値の有無・強弱についての感情イメージ）であるが、この全体としての自己に対する「自信イメージ」は、日常生活の中での具体的諸事象（ex. 大学の成績、体力など）に関する経験などを通して形成された「自信イメージ」の総合として成立すると考えられる。また、この全体としての自己に対する「自信イメージ」と具体的諸事象に対する「自信イメージ」との関係は、より強く関係する事象、あまり関係のない事象などもあるであろう。

本研究は、以上を前提として、まず第1に、全体としての「自信」に強く関係する事象が何かを明らかにすること、その上で、第2に、具体的な諸事象が「自信」を軸として、どのような関連を持っているか（すなわち、「自

信」の構造）を明らかにすることを目的とするものである。

研究方法

全体としての自己に対する「自信イメージ」と、具体的諸事象に対する「自信イメージ」との関係を明らかにするために、刺激語（全体および具体的諸事象を表わす語句）を、コンピューター・ディスプレイに表示し、5段階評定を被験者に求めた。本研究は、本質的には質問紙調査法による調査研究であるが、刺激語を1つ1つ順番に提示し、ディスプレイに表示されている以外の刺激語が被験者には見えないようにしたのが、大きな特徴である。被験者は、画面表示されている刺激語についてのみ直観的に評定し、後続する刺激語はもちろんのこと、既評定の刺激語についても、それを見直すことができないので、通常の質問紙調査法に比して、かなり純粋に諸事象の1つ1つを独立して評定することになる。具体的な実験的調査の流れは次の図1の通りであった。

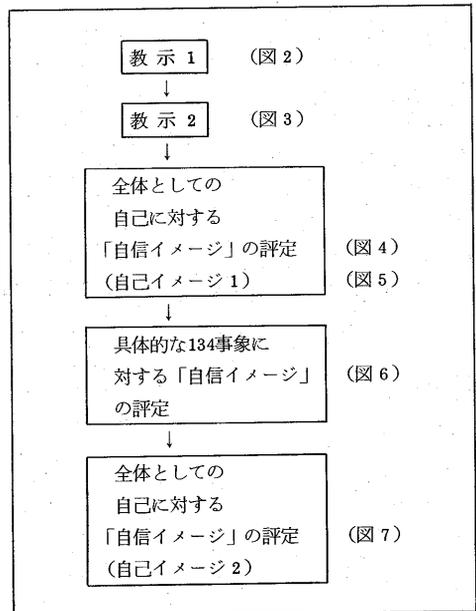


図1. 調査の流れ

本日は実験にご協力いただき、有難うございます。
この実験は、どういふことに“自信”を持っていて、
どういふことには“自信”がないのかの調査です。
このデータは統計的に処理され、研究以外の目的で
使用されたり、個人のデータが公表されることは
ありませんので、思っているままにお答え下さい。

〔スペース・キー〕

図 2. 教 示 1

第 1 部

次の頁から、134項目にわたって、いろいろな
事項（例えば、「マンガの知識」）が画面に出ます。
これらの事項について、あなた自身、どの程度自信
があると言えるかを

1. かなり自信がある
2. まあまあ、自信がある
3. 自信があるとも、ないとも言いにくい
4. あまり、自信がない
5. ほとんど、自信がない

の 5 段階の中で最も近いものを選んで、番号を
回答（キーイン）して下さい。なお、3番は
できるだけ選ばないで、どうしても決められない
時だけにして下さい。よろしくお願ひします。

〔スペース・キー〕

図 3. 教 示 2

QX. あなた自身

1. かなり、自信がある
2. まあまあ、自信がある
3. 自信が、あるともないとも言いにくい
4. あまり、自信がない
5. ほとんど、自信がない

図 4

QX. あなた自身

- ① かなり、自信がある
2. まあまあ、自信がある
- 1 3. 自信が、あるともないとも言いにくい
4. あまり、自信がない
5. ほとんど、自信がない

〔修正〕→正しい番号を押す〔OK〕→リターン・キー

図 5

Q 1. 手先の器用さ

1. かなり、自信がある
- ② 2. まあまあ、自信がある
- 2 3. 自信が、あるともないとも言いにくい
4. あまり、自信がない
5. ほとんど、自信がない

〔修正〕→正しい番号を押す〔OK〕→リターン・キー

図 6

QY. あなた自身

1. かなり、自信がある
- ② 2. まあまあ、自信がある
- 2 3. 自信が、あるともないとも言いにくい
4. あまり、自信がない
5. ほとんど、自信がない

〔修正〕→正しい番号を押す〔OK〕→リターン・キー

図 7

1. 「自信イメージ」の調査項目（刺激語）
の設定

1.1. 全体としての自己
全体としての自己に対する「自信イメージ」
の調査項目は、図 4 および図 6 に示すように、
「あなた自身」とした。この「自信イメージ」
は、134 の具体的諸事象に対する評定をはさ
んで、前と後の 2 回実施した。その評定結果

を、以下、それぞれ「自己自信イメージ1」(前)および「自己自信イメージ2」(後)と記すことにする。

1.2. 具体的諸事象

具体的諸事象をあらゆる調査項目は、表7に示す134項目であった。項目の設定にあたっては、経験的に“全体としての自信”に結びつく可能性をもつであろう諸事象を念頭に置きながら、文教大学人間科学部(および越谷キャンパス)学生により適合するであろう事象を広く調査することとした。

調査項目134は、

- 1) 身体・外見に関連…………… 12項目
 - 2) 感性(センス)に関連…………… 3項目
 - 3) 健康・体力に関連…………… 13項目
 - 4) 知識に関連…………… 13項目
 - 5) 学業成績に関連…………… 6項目
 - 6) 特技・技能・才能に関連…………… 11項目
 - 7) 過去および背景に関連…………… 8項目
 - 8) 信念・生き方に関連…………… 11項目
 - 9) 現実の対人関係に関連…………… 10項目
 - 10) 対人関係技術や能力に関連…………… 13項目
 - 11) 知的能力に関連…………… 5項目
 - 12) 知的特性に関連…………… 5項目
 - 13) 情緒的特性に関連…………… 8項目
 - 14) 意志的特性に関連…………… 16項目
- であった。

2. 評定方法

各項目に対する評定は、教示2(図3)に示す通り、5段階評定であった。教示2によって被験者には、なるべく、1. 2. または 4. 5. を選ぶように教示され、「3. 自信があるともないとも言いにくい」はできるだけ選ばないように指示された。

被験者による調査項目に対する評定はすべてキー・ボード操作(キー・ボード入力)によって行われた。被験者が、該当項目(ex. 「あなた自身」)を見て(図4)、評定番号(1~5)をキー・インすると、画面にはその結果が、図5のように、□には、キー・インした番号が、そして同時に、該当番号が○で囲まれて表示された。被験者が評定を修正

したければ、正しい番号をキー・インすると、直後に画面は修正した通りの結果を表示した。その評定がO.K.ならば被験者はリターン・キーを押し、次の調査項目画面(図4の状態)があらわれるようになっていた。本調査では、リターン・キーを押すまでは、何度でも繰り返して評定を修正できるようになっていたが、O.K.と判断してリターン・キーを押すと、それ以上の修正はできない(以前の項目も見ることができない)ものであった。

調査項目の提示順序は、「あなた自身」の前後2回は固定され、その間に提示された134項目は、N88-BASICプログラムのランダム機能によって、表7の順をランダム化したものであった。但し、どの被験者も同じ提示順序であった。なお、被験者の評定結果は、フロッピーディスクにそのまま記録された。

本研究で使用したBASICプログラムはすべて筆者の作成によるものである。

3. 被験者(調査対象者)

文教大学越谷キャンパス学生、男子50名、女子80名、計130名。対象者の年令別・学部別属性は、表1の通りであった。

表1. 被 験 者

	年 令				学 部			合計
	18~19	20	21	22~24	教育	人科	文学	
男	4	7	7	32	12	35	3	50
女	6	16	24	34	13	39	28	80
計	10	23	31	66	25	74	31	130

4. 実施時期

1990年11月~12月。文教大学越谷キャンパス6号館616実験室において、個別調査として実施した。

結 果

1. 全体としての自己に対する「自信イメージ」

1.1. 1回目と2回目の結果

表2は、全体としての自己に対する「自信イメージ」(以下、「自己自信イメージ」)の1回目(前)と2回目(後)の結果である。

まず、1回目の「自己自信イメージ」を見ると、全体（男女計）では、「自信がある」（表2の1と2の計）とする者は43.1%、「自信があるともないとも言にくい」が7.7%、「自信がない」（4と5の計）が49.2%あり、わずか（6.1%）ではあるが、「自信がある」者より「自信がない」者の方が多い。これを男女別に見ると、男子では「自信がある」（60.0%）に対して「自信がない」（32.0%）で、「自信がある」者の方がかなり多く（28.0%）、女子では、「自信がある」は32.5%で、「自信がない」（60.1%）とする者の方が逆にかなり多く（27.6%）となっている。この男女の違いを χ^2 検定したところ、 $\chi^2=20.59$ で、0.1%水準で有意であった。

また、2回目の「自己自信イメージ」では、全体（男女計）は、「自信がある」は、50.0%、「自信がない」は39.3%で、「自信がある」とする者の方が多い（10.7%）という結果になった。これを男女別に見ると、男子では「自信がある」は60.0%、「自信がない」は30.0%で「自信がある」とする者が「ない」者の2倍であり、女子では、「自信がある」（43.8%）の方が「ない」（45.0%）とする者より、わずか（1.2%）であるが少ないという結果であった。この男女の違いを χ^2 検定したところ、 $\chi^2=9.60$ で有意水準は5%であった。

「自己自信イメージ」の1回目と2回目を比較すると、全体（男女計）、男子および女

子のいずれにおいても、1回目比べて2回目の方が「自信がある」とする者が増加していることが分かる。全体では、「自信がある」は43.1%から50.0%へと6.9%増加し、また男子では1回目と2回目で60.0%と変化ないが、「1. かなり自信がある」が18.0%から22.0%へと4.0%増加し、女子では、「自信がある」者が32.5%から43.8%と11.3%増加しているのに加え、その中味としても、「1. かなり自信がある」が0.0%から5.0%へと増加していることが分かる。この1回目と2回目の違いおよび男女の違いは、平均値の違いによっても示されている。ここでは、1回目から2回目にかけて、「自信がある」とする者の増加が主に女子の変化において大きいことが推定される。

1.2. 1回目から2回目への変化

表3は、「自己自信イメージ」の1回目と2回目の変化を、（2回目-1回目）として算出したものである。この結果から、全体（男女計）では「自己自信イメージ」の「よりプラスへの変化」（+1～+3の計）は25.4%、「よりマイナスへの変化」（-1～-3の計）は12.3%、「変化しなかった」（0）は62.8%であることが分かる。これを男女別に見ると、「プラスへの変化」は女子（28.8%）が男子（20.0%）より大きく、「マイナスへの変化」には男女の違いのないことが示されていた。この男女の変化の違いを χ^2 検

表2. 「自己自信イメージ」の1回目と2回目

	自己自信イメージ1(1回目)			自己自信イメージ2(2回目)		
	全 体	男	女	全 体	男	女
1. かなり自信がある (+2)	9(6.9)	9(18.0)	0(0.0)	15(11.5)	11(22.0)	4(5.0)
2. まあまあ自信がある (+1)	47(36.2)	21(42.0)	26(32.5)	50(38.5)	19(38.0)	31(38.8)
3. 自信があるとも ないとも言にくい (0)	10(7.7)	4(8.0)	6(7.5)	14(10.8)	5(10.0)	9(11.3)
4. あまり自信がない (-1)	59(45.4)	14(28.0)	45(56.3)	43(33.1)	13(26.0)	30(37.5)
5. ほとんど自信がない (-2)	5(3.8)	2(4.0)	3(3.8)	8(6.2)	2(4.0)	6(7.5)
平 均 値	-.031	.420	-.315**	.162	.480	-.038*
S. D.	1.120	1.197	.976	1.187	1.216	1.130
N(人)	130	50	80	130	50	80
χ^2	$\chi^2=20.59$ P=0.0001			$\chi^2=9.60$ P=0.048		

(注) **男女差0.1%水準、*男女差1%水準

表3. 「自己自信イメージ」の変化

		プラスへ変化			変化せず 0	マイナスへ変化			計	χ^2
		+3	+2	+1		-1	-2	-3		
頻度	男		2	8	34	3	3		50	$\chi^2=5.250$ P=0.512
	女	2	10	11	47	6	3	1	80	
	全体	2	12	19	81	9	6	1	130	
率	男	20.0%			68.0%	12.0%			100.0%	$\chi^2=1.357$ P=0.507
	女	28.8%			58.8%	12.5%			100.0%	
	全体	25.4%			62.3%	12.3%			100.0%	

(注) 自己自信イメージの1回目と2回目の相関=0.645 (P=0.000), 関与率=41.6%

定したところ、+3~-3の7区分では $\chi^2=5.250$ (P=0.512) であり、プラス、0、マイナスの3区分では、 $\chi^2=1.357$ (P=0.507) で、いずれも、男女に有意な差を見るものではなかった。また、(注) に示したように、1回目と2回目の評定値の相関(積率相関係数)を求めたところ、 $r=0.645$ (関与率41.6%) が得られた。以上から、1回目から2回目への変化が全体傾向としては、「自信がある」とする方向への変化(表2)ではあるが、プラスへの変化とマイナスへの変化の両方が生じていることが分かる。

2. 諸事象134に対する「自己自信イメージ」

表4は、「自己自信イメージ」の評定の

- 「1. かなり、自信がある」を+2,
 - 「2. まあまあ、自信がある」を+1,
 - 「3. 自信が、あるともないとも言いにくい」を0,
 - 「4. あまり、自信がない」を-1,
 - 「5. ほとんど、自信がない」を-2,
- として、1~134項目について平均値を算出したものである。

2.1. 多くの学生が「自信ある」事象

表5は、多くの学生にとって「自信がある」とされた項目の1位~20位である。男女ともに「自信がある」とする事象は、
「44. 高校の成績(全体1.26, 男子1.30, 女子1.24)」、「97. 親切さ(1.14, 1.00, 1.23)」、「125. 決断力(1.09, 1.20, 1.01)」、「85. 先輩に恵まれている(1.08, 1.02, 1.11)」、「19. 眠りの深さ(1.03, 0.92, 1.10)」、「87. 先生

に恵まれている(1.00, 0.98, 1.01)」、「106. 好奇心(0.95, 0.88, 1.00)」、「93. 協調性(0.93, 0.84, 0.99)」、「39. 様々なスポーツの知識(0.92, 0.84, 1.00)」、「42. 小学校の成績(0.92, 0.92, 0.93)」、「8. スタイル(0.86, 0.98, 0.79)」であることが分かる。また、全体(男女計)で20位以内であった「43. 中学校の成績(全体0.82, 男子0.80, 女子0.83)」、「23. 脚力(歩くこと)(0.79, 0.90, 0.71)」、「101. 理解力(0.79, 0.82, 0.78)」、「1. 目(0.78, 0.78, 0.78)」は男女ともに「自信がある」とするものであった。

なお、以上の他、男子学生が、特に「自信がある」とするものは、「52. 今のサークル活動(全体0.75, 男1.02, 女0.59)」、「56. 運動神経(0.70, 1.02, 0.50)」、「66. 自分の過去(0.62, 1.00, 0.39)」、「102. 判断力(0.49, 1.00, 0.18)」、「2. 鼻(0.64, 0.94, 0.45)」、「94. 人の気持の理解(0.58, 0.88, 0.39)」、「103. 表現力(0.67, 0.86, 0.55)」、「72. 自分の将来(0.62, 0.84, 0.49)」であり、これに対し、女子学生が特に「自信がある」とするものは、「24. 健康(全体0.88, 男0.48, 女1.13)」、「90. 人を説得する(0.89, 0.66, 1.04)」、「29. 専門の知識(0.65, 0.22, 0.91)」、「25. 体力(0.76, 0.58, 0.88)」、「123. 粘り強さ(0.77, 0.64, 0.85)」、「48. スキー(0.77, 0.64, 0.85)」などであった。

2.2. 多くの学生が「自信がない」事象

表6は、多くの学生にとって「自信がない」とされた項目10を示したものである。男女と

表4. 諸事象に対する「自信イメージ」の平均値

	全 体	男	女		全 体	男	女
【身体・外見】				33. 社会・文化の知識	.02	.40	-.21 **
1. 目	.78	.78	.78	34. 科学に関する知識	.22	.30	.16
2. 鼻	.64	.94	.45 *	35. 数学・統計の知識	.55	.62	.51
3. 口	-.20	.00	-.33	36. 英語(読む)	-.99	-1.00	-.99
4. 顔	.55	.58	.53	37. 英語(話す)	.29	.46	.19
5. 脚	-.29	-.32	-.28	38. 好きなスポーツの知識	.10	.34	-.05 *
6. 手	.68	.62	.71	39. 様々なスポーツの知識	.92	.84	1.00
7. 胸(バスト)	.33	.22	.40	40. 音楽・映画・演劇・絵の知識	-.56	-.66	-.50
8. スタイル	.86	.98	.79	41. 自分の趣味の知識	.58	.46	.65
9. 身長	.35	.50	.26	【学業成績】			
10. 体重	-.67	-.72	-.64	42. 小学校の成績	.92	.92	.93
11. 後ろ姿	-.16	-.22	-.13	43. 中学校の成績	.82	.80	.83
12. 自分の肌	.20	.16	.23	44. 高校の成績	1.26	1.30	1.24
【感性(センス)】				45. 大学の成績	-.04	-.02	-.05
13. 服装の着こなし	.49	.66	.38	46. 授業の出席率	.16	.32	.06
14. 着こなしのセンス	-1.11	-1.24	-1.03	47. 講義のノート	.65	.70	.61
15. 自分のセンスの良さ	.42	.40	.43	【特技・才能】			
【健康・体力】				48. スキー	.77	.64	.85
16. 早起き	-.26	-.32	-.23	49. テニス	-.02	.00	-.03
17. すぐ眠れる	.19	.14	.21	50. 水泳	-.53	-.12	-.79 ***
18. どこでも眠れる	.42	.54	.34	51. 得意なスポーツ	.06	.24	-.05
19. 眠りの深さ	1.03	.92	1.10	52. 今のサークル活動	.75	1.02	.59 *
20. 徹夜で仕事(勉強)	-.06	.20	-.23 *	53. パソコンゲーム	.49	1.00	.18 ***
21. 酒を飲む	-.01	.04	-.04	54. カラオケ	.25	.44	.13
22. 食欲(食べること)	.18	.36	.06	55. 自分の特技	-.46	-.12	-.68 **
23. 脚力(歩くこと)	.79	.90	.71	56. 運動神経	.70	1.02	.50 **
24. 健康	.88	.48	1.13 ***	57. 手先の器用さ	.15	.14	.16
25. 体力	.76	.58	.88	58. 自分の才能	-.16	-.10	-.20
26. バイタリティ	-.58	-.46	-.65	【過去・背景】			
27. 生活力	-.38	-.50	-.30	59. 小学校時代の自分	-.24	.08	-.44 **
28. 自分の生命力	.45	.30	.54	60. 中学校時代の自分	.30	.76	.01 **
【知識】				61. 高校時代の自分	.15	.10	.19
29. 専門の知識	.65	.22	.91 **	62. 高校の部活動	-.66	-.58	-.71
30. 教養的知識	-.37	.08	-.65 ***	63. 文教大に来たこと	-.12	-.32	.01
31. 政治に関する知識	.24	.54	.05 *	64. 自分の出身校	.58	.68	.51
32. 産業経済の知識	-.15	.24	-.39 **	65. 自分の家系	.65	.76	.58

(注) 男女差の有意水準 * 5%水準 ** 1%水準 *** 0.1%水準

	全 体	男	女
66. 自分の過去	.62	1.00	.39 ***
【信念・生き方】			
67. 失敗を恐れない	.38	.38	.38
68. 嫌な事は厭と言える	-1.31	-.98	-1.51 **
69. 自分に誠実	-.73	-.92	-.61
70. 人生の目標	.23	.02	.36
71. 運の良さ(強さ)	.45	.66	.33
72. 自分の将来	.62	.84	.49
73. 自分の人生	-.55	-.64	-.50
74. 自分の生き方	.13	-.34	.43 **
75. 自分の考え方	.24	.78	-.10 ***
76. 自分の信念	.71	.66	.74
77. 自分の信仰(無信仰)	.19	.36	.08
【対人関係】			
78. 父との関係	-.62	-1.20	-.25 ***
79. 母との関係	.12	.28	.03
80. 兄弟(姉妹)の仲の良さ	.47	.68	.34
81. 人に好かれる	-.25	.14	-.49 **
82. 異性にもてる	-.15	-.50	.08 **
83. 人に与える印象	.43	.74	.24 *
84. 人間的魅力	-.89	-.66	-1.04 *
85. 先輩に恵まれている	1.08	1.02	1.11
86. 友人に恵まれている	-.79	-.50	-.96 **
87. 先生に恵まれている	1.00	.98	1.01
【対人関係能力】			
88. リーダーシップ	-.69	-.58	-.76
89. 人前で話す	.05	.10	.01
90. 人を説得する	.89	.66	1.04
91. 人と打ち解ける	-1.10	-.82	-1.28 *
92. 人付き合いの良さ	.26	.20	.30
93. 協調性	.93	.84	.99
94. 人の気持ちの理解	.58	.88	.39 **
95. 人への思いやり	-1.09	-.86	-1.23 *
96. やさしさ	.41	.38	.43
97. 親切さ	1.14	1.00	1.23
98. 感情表現	-.66	-.34	-.86 *
99. 感受性	.71	.58	.79
100. 家族に対する愛情	-.22	-.04	-.33

(注) 男女差の有意水準 * 5%水準 ** 1%水準 *** 0.1%水準

	全 体	男	女
【知的能力】			
101. 理解力	.79	.82	.78
102. 判断力	.49	1.00	.18 ***
103. 表現力	.67	.86	.55
104. 論理性	.49	.42	.53
105. 創造力	-.48	-.48	-.48
【知的特性】			
106. 好奇心	.95	.88	1.00
107. 研究心・探究心	.27	.18	.33
108. 向上心	.64	.70	.60
109. 勉強心	-.71	-.50	-.84
110. 遊び心	-.15	-.04	-.21
【情緒的特性】			
111. 正直さ	.61	.66	.58
112. 素直さ	.42	.50	.36
113. 活発さ	.29	.62	.09 *
114. 立ち直りの早さ	-.01	-.02	.00
115. 適応力の高さ	-.40	-.22	-.51
116. 楽天的	.32	.28	.34
117. 明るい	-.55	-.08	-.85 ***
118. 自分の性格	-.05	-.12	.00
【意志的特性】			
119. 計画性	-.24	-.30	-.20
120. 集中力	.01	.06	-.03
121. 忍耐力	-.39	-.48	-.34
122. 持久力	.42	.42	.43
123. 粘り強さ	.77	.64	.85
124. 行動力	-.15	-.32	-.04
125. 決断力	1.09	1.20	1.01
126. 努力	.30	.20	.36
127. 欠点の自覚	.21	.24	.19
128. 積極性	.43	.44	.43
129. 責任感	.53	.52	.54
130. 時間の使い方	.22	.44	.08
131. 時間を守る	-.51	-.34	-.61
132. 約束を守る	.19	.08	.25
133. 負けず嫌い	.11	.08	.13
134. 意志の強さ	.21	.38	.10

もに「自信がない」ものは、「68. 嫌な事は厭と言える (全体-1.31, 男-1.24, 女-1.51)」「14. 着こなしのセンス (-1.11, -1.24, -1.03)」「91. 人と打ち解ける (-1.10, -0.82, -1.28)」「95. 人への思いやり (-1.09, -0.86, -1.23)」「36. 英語 (読む) (-0.99, -1.00, -0.99)」「84. 人間的魅力 (-0.89, -0.66, -1.04)」であった。また、「88. リーダーシップ (全体-0.69, 男-0.58, 女-0.76)」「10. 体重 (-0.67, -0.72, -0.64)」も男女ともに「自信がない」とするものであった。

なお、以上の他、男子学生が特に「自信がない」とするものは「78. 父との関係 (全体-0.62, 男-1.20, 女-0.25)」「69. 自分に誠実 (-0.73, -0.92, -0.61)」であり、女子学生が特に「自信がない」とするものは、「86. 友人に恵まれている (全体-0.79, 男-0.50, 女-0.96)」「98. 感情表現 (-0.66, -0.34, -0.86)」「117. 明るい (-0.55, -0.08, -0.85)」「109. 勉学心 (-0.71, -0.50,

-0.84)」などであった。

2.3. 「自信イメージ」の男女差

表4で、男子学生と女子学生の「自信イメージ」に有意水準1%で差のある項目を見ると、男子の方が女子に比べ「自信がある」とする項目は17、反対に女子の方が男子に比べ「自信がある」とするものが5項目であることが分かる。この男女に有意な差のある項目は、①男女共にプラス、②男女のいずれかがプラスでいずれかがマイナス、③男女共にマイナス、の3つのパターンに分けることができる。

男子が女子よりも「自信がある」とする項目では、①のパターンに当るものは、「53. パソコンゲーム (男1.00, 女0.18)」「102. 判断力 (1.00, 0.18)」「66. 自分の過去 (1.00, 0.39)」「60. 中学時代の自分 (0.76, 0.01)」「56. 運動神経 (1.02, 0.50)」の5項目であった。②のパターンは「75. 自分の考え方 (男0.78, 女-0.10)」「30. 教養的知識 (0.08, -0.65)」「81. 人に好かれる (0.14, -0.49)」

表5. 多くの学生にとって「自信がある」事象 (上位20)

	全 体	男 子	女 子
1位	高校の成績 (1.26)	高校の成績 (1.30)	高校の成績 (1.24)
2位	親切さ (1.14)	決断力 (1.20)	親切さ (1.23)
3位	決断力 (1.09)	先輩に恵まれている (1.02)	健康 (1.13)
4位	先輩に恵まれている (1.08)	今のサークル活動 (1.02)	先輩に恵まれている (1.11)
5位	眠りの深さ (1.03)	運動神経 (1.02)	眠りの深さ (1.10)
6位	先生に恵まれている (1.00)	自分の過去 (1.00)	人を説得する (1.04)
7位	好奇心 (0.95)	親切さ (1.00)	先生に恵まれている (1.01)
8位	協調性 (0.93)	判断力 (1.00)	決断力 (1.01)
9位	様々なスポーツの知識 (0.92)	先生に恵まれている (0.98)	様々なスポーツの知識 (1.00)
10位	小学校の成績 (0.92)	スタイル (0.98)	好奇心 (1.00)
11位	人を説得する (0.89)	鼻 (0.94)	協調性 (0.99)
12位	健康 (0.88)	眠りの深さ (0.92)	小学校の成績 (0.93)
13位	スタイル (0.86)	小学校の成績 (0.92)	専門の知識 (0.91)
14位	中学校の成績 (0.82)	脚力 (歩くこと) (0.90)	体力 (0.88)
15位	脚力 (歩くこと) (0.79)	人の気持ちの理解 (0.88)	粘り強さ (0.85)
16位	理解力 (0.79)	好奇心 (0.88)	スキー (0.85)
17位	目 (0.78)	表現力 (0.86)	中学校の成績 (0.83)
18位	スキー (0.77)	様々なスポーツの知識 (0.84)	スタイル (0.79)
19位	粘り強さ (0.77)	自分の将来 (0.84)	感受性 (0.79)
20位	体力 (0.76)	協調性 (0.84)	目・理解力 (0.78)

表6. 多くの学生にとって「自信がない」事象(下位10)

全 体	男 子	女 子
1位 嫌な事は厭と言える (-1.31)	着こなしのセンス (-1.24)	嫌な事は厭と言える (-1.51)
2位 着こなしのセンス (-1.11)	父との関係 (-1.20)	人と打ち解ける (-1.28)
3位 人と打ち解ける (-1.10)	英語(読む) (-1.00)	人への思いやり (-1.23)
4位 人への思いやり (-1.09)	嫌な事は厭と言える (-0.98)	人間的魅力 (-1.04)
5位 英語(読む) (-0.99)	自分に誠実 (-0.92)	着こなしのセンス (-1.03)
6位 人間的魅力 (-0.89)	人への思いやり (-0.86)	英語(読む) (-0.99)
7位 友人に恵まれている (-0.79)	人と打ち解ける (-0.82)	友人に恵まれている (-0.96)
8位 自分に誠実 (-0.73)	体重 (-0.72)	感情表現 (-0.86)
9位 勉学心 (-0.71)	人間的魅力 (-0.66)	明るい (-0.85)
10位 リーダーシップ (-0.69)	好きな音楽・映画・演劇・絵などの知識 (-0.66)	勉学心 (-0.84)

「33. 社会・文化の知識 (0.40, -0.21)」「59. 小学校時代の自分 (0.08, -0.44)」「32. 産業経済の知識 (0.24, -0.39)」の6項目, ③のパターンは, 「117. 明るい (男-0.08, 女-0.85)」「50. 水泳 (-0.12, -0.79)」「68. 嫌な事は厭と言える (-0.98, -1.51)」「55. 自分の特技 (-0.12, -0.68)」「94. 人の気持の理解 (-0.82, -1.28)」「86. 友人に恵まれている (-0.50, -0.96)」の6項目であった。

また, 女子が男子より「自信がある」とするものは5項目であるが, ①は「24. 健康 (男0.48, 女1.13)」および「29. 専門の知識 (0.22, 0.91)」, ②は「74. 自分の生き方 (-0.34, 0.43)」と「82. 異性にもてる (-0.50, 0.08)」, ③のパターンは, 「78. 父との関係 (-1.20, -0.25)」であった。

3. 「自己自信イメージ」と「事象自信イメージ」の相関

表7のA欄は, 「自己自信イメージ」(2回目)と事象134の「自信イメージ」との相関係数を示したものである。

「自己自信イメージ」は1回目と2回目があるが, 表3の(注)に示したように, その相関は0.645(関与率=41.6%)であり, また1回目から2回目にかけて変化したものは, プラスとマイナスを合わせて37.7%にも達し, 1回目と2回目の「自信イメージ」の違いはかなりある。従って, 「自己自信イメージ」と事象134の「自信イメージ」との関係を検

討するに当たって, どちらがよい指標であるかが問題となる。ところで, 一般に事象Aが事象Bのよい指標である場合にはAとBの相関が有意に高いことが知られている。この考え方に従って, 1回目と2回目の「自己自信イメージ」と事象134の「自信イメージ」との相関をそれぞれ算出し比較したところ, ①1回目との相関と2回目との相関のいずれかが $r=0.20$ 以上(1%水準で有意)となった項目は134項目中102項目であった。②この有意な相関を示した102項目の中では, 1回目相関の大きな項目は21項目(20.6%)であり, 2回目相関の大きな項目は81項目(79.4%)であった。③従って, 有意な相関としては, 2回目との相関の占める割合が圧倒的に多い(多くの項目の良い指標となっている)という意味で, 2回目の「自己自信イメージ」の方がよい指標と考えられる。

以上から, 本研究においては, 「自己自信イメージ」は2回目をもって代表するものとした。

3.1. 全体(男女計)の結果

全体(男女計)では, 有意水準1%の相関を示す項目は, 134項目中の92項目(68.7%)であり, 0.1%水準のものは70項目(52.2%)であった。また, 134項目の中で, 負の相関を示すものが3項目あるが, これらはいずれも無相関に近いものであった。正の相関を示すもののうち, $r=0.20$ 未満のものは36項目(全体の26.9%), $r=0.20$ 以上0.40未満のもの

のは69項目(51.4%)、 $r=0.40$ 以上は26項目(19.4%)であった。この相関係数0.40以上の“かなり高い相関”を示す26項目は、区分毎に見て、

【身体・外見】「9. 身長($r=0.688$)」「11. 後ろ姿(0.463)」「4. 顔(0.413)」の3項目

【感性(センス)】0項目

【健康・体力】「20. 徹夜で仕事(勉強)(0.701)」「18. どこでも眠れる(0.613)」「22. 食欲(食べること)(0.608)」「21. 酒を飲む(0.456)」「17. すぐ眠れる(0.429)」

【知識】「38. 好きなスポーツの知識(0.454)」の1項目

【学業成績】「45. 大学の成績(0.658)」の1項目

【特技・技能・才能】「56. 運動神経(0.532)」「58. 自分の才能(0.433)」の2項目

【過去・背景】「66. 自分の過去(0.669)」「61. 高校時代の自分(0.420)」の2項目

【信念・生き方】「77. 自分の信仰(無信仰)(0.592)」「76. 自分の信念(0.403)」の2項目

【現実の対人関係】「79. 母との関係(0.698)」「80. 兄弟(姉妹)の仲の良さ(0.680)」の2項目

【対人関係技術・能力】「88. リーダーシップ(0.449)」「96. やさしさ(0.428)」の2項目

【知的能力】0項目

【知的特性】「109. 勉強心(0.559)」の1項目

【情緒的特性】「114. 立ち直りの早さ(0.478)」「116. 楽天的(0.445)」「118. 自分の性格(0.426)」の3項目

【意志的特性】「133. 負けず嫌い(0.407)」「131. 時間を守る(0.403)」の2項目

であった。

反対に、無相関を示す $r=0.100$ 以下の項目は、「29. 専門の知識(0.007)」「36. 英語(読む)(0.069)」「48. スキー(0.015)」「68. 嫌な事は厭と言える(-0.590)」「74. 自分の生

き方(0.020)」「78. 父との関係(-0.041)」「82. 異性にもてる(0.067)」「87. 先生に恵まれている(0.051)」「90. 人を説得する(0.051)」「93. 協調性(0.062)」「97. 親切さ(0.030)」「104. 論理性(0.063)」「119. 計画性(0.080)」の13項目であった。

3.2. 男女別の結果

表7-Aで男女別の相関係数を見ると、男女間の相関係数の差が0.15未満の項目は88項目(65.7%)で多くの項目が男女共に同じ水準の相関関係を示すものであった。これに対し、かなりの差を示すと考えられる0.20以上の差のある項目は35項目(26.1%)であった。

この35項目は、次の4つのタイプに分類されるものであった。

①男女いずれかが負の相関で他方が正の相関を示すもの — 該当は8項目であるが、男子が負の相関のものが7項目、女子が1項目であった。この8項目における負の相関は、 $-0.006 \sim -0.073$ の範囲にあり、いずれも無相関を示すものであった。また、対となる正の相関は、3項目が1%水準で有意な相関を示し、残る5項目には有意な相関は見られなかった。

②男女ともに正の相関であるが、いずれも1%水準では有意な相関とは言えないもの — 該当は1項目で女子>男子であった。

③男女ともに正の相関で、かつ、いずれも1%水準で有意な相関を示すもの — 該当は5項目で、女子<男子が1項目、男子>女子が4項目であった。

④男女ともに正の相関であるが、男女いずれかが1%水準で有意な相関を示し、他方は有意な相関とは言えないもの — 該当は21項目で、そのうち17項目は高い方の相関の有意水準は0.1%水準であった。また、女子>男子の項目は17、男子>女子は4項目であった。

表7. 相 関 に よ る 検 討

	A. 「あなた自身」との相関			B. 変化との相関		A. 「あなた自身」との相関			B. 変化との相関
	全 体	男	女			全 体	男	女	
【身体・外見】									
1. 目	.216 *	.236	.209	.113	34. 科学に関する知識	.329 **	.251	.382 **	.188
2. 鼻	.358 **	.162	.424 **	.159	35. 数学・統計に関する知識	.285 **	.307	.269 *	.123
3. 口	.354 **	.302	.363 **	.175	36. 英語(読む)	.069	.087	.062	.006
4. 顔	.413 **	.572 **	.310 *	.191	37. 英語(話す)	.338 **	.220	.393 **	.227 *
5. 脚	.238 *	.194	.288 *	.094	38. 好きなスポーツの知識	.454 **	.308	.517 **	.025
6. 手	.119	.202	.076	.045	39. 様々なスポーツの知識	.278 **	.285	.311 *	.089
7. 胸(バスト)	.273 **	.026	.488 **	.306 **	40. 音楽・映画・演劇・絵の知識	.188	.184	.226	.108
8. スタイル	.276 **	.237	.286 *	.030	41. 自分の趣味の知識	.112	.209	.072	.025
9. 身長	.688 **	.621 **	.734 **	.319 **	【学業成績】				
10. 体重	.145	-.022	.280 *	.118	42. 小学校の成績	.254 *	.318	.215	.129
11. 後ろ姿	.463 **	.292	.623 **	.344 **	43. 中学校の成績	.200	.336 *	.110	.013
12. 自分の肌	.304 **	.159	.432 **	.244 *	44. 高校の成績	.169	.015	-.265 *	.039
【感性(センス)】					45. 大学の成績	.658 **	.617 **	.711 **	.284 **
13. 服装のセンス	.399 **	.296	.449 **	.062	46. 授業の出席率	.374 **	.336 *	.382 **	.043
14. 着こなしのセンス	.201	.247	.218	.002	47. 講義のノート	.196	.253	.144	-.026
15. 自分のセンスの良さ	.221 *	.246	.216	.157	【特技・才能】				
【健康・体力】					48. スキー	.015	-.073	.109	.018
16. 早起き	.319 **	.283	.378 **	.069	49. テニス	.381 **	.379 *	.394 **	.252 *
17. すぐ眠れる	.429 **	.536 **	.389 **	.221 *	50. 水泳	.267 *	.263	.200	.118
18. どこでも眠れる	.613 **	.801 **	.486 **	.305 **	51. 得意なスポーツ	.298 **	.117	.409 **	.119
19. 眠りの深さ	.157	.280	.100	.060	52. 今のサークル活動	.160	.176	.098	-.012
20. 徹夜で仕事(勉強)	.701 **	.701 **	.681 **	.248 *	53. パソコンゲーム	.212 *	.090	.196	-.091
21. 酒を飲む	.456 **	.511 **	.423 **	.125	54. カラオケ	.258 *	.192	.271 *	-.058
22. 食欲(食べること)	.608 **	.584 **	.609 **	.205 *	55. 自分の特技	.213 *	.051	.272 *	-.024
23. 脚力(歩くこと)	.283 **	.098	.400 **	.143	56. 運動神経	.532 **	.506 **	.513 **	.289 **
24. 健康	.153	.033	.396 **	.078	57. 手先の器用さ	.200	.218	.198	.079
25. 体力	.185	.001	.362 **	.176	58. 自分の才能	.433 **	.462 **	.415 **	.263 *
26. バイタリティ	.302 **	.227	.336 *	.069	【過去・背景】				
27. 生活力	.253 *	.259	.294 *	.031	59. 小学校時代の自分	.308 **	.244	.298 *	-.000
28. 自分の生命力	.277 **	.477 **	.189	.065	60. 中学校時代の自分	.365 **	.122	.450 **	.009
【知識】					61. 高校時代の自分	.420 **	.384 *	.484 **	.222 *
29. 専門の知識	.007	.042	.081	-.060	62. 高校の部活動	.231 *	.241	.216	.068
30. 教養的知識	.364 **	.339 *	.312 *	-.037	63. 文教大に来たこと	.223 *	.075	.401 **	.161
31. 政治に関する知識	.166	.164	.102	-.160	64. 自分の出身校	.254 *	.183	.290 *	.123
32. 産業経済の知識	.219 *	.045	.258	-.060	65. 自分の家系	.358 **	.276	.399 **	.087
33. 社会・文化の知識	.336 **	.233	.351 **	-.027	66. 自分の過去	.669 **	.603 **	.682 **	.189

	A. 「あなた自身」との相関			B. 変化との相関
	全体	男	女	
【信念・生き方】				
67. 失敗を恐れない	.260 *	.076	.393 **	.223 *
68. 嫌な事は厭と言える	-.059	-.063	-.169	-.100
69. 自分に誠実	.133	.175	.152	.132
70. 人生の目標	.275 **	.328 *	.299 *	.079
71. 運の良さ(強さ)	.256 *	.300	.198	.021
72. 自分の将来	.151	.188	.085	.098
73. 自分の人生	.108	.072	.156	-.090
74. 自分の生き方	.020	.099	.070	.130
75. 自分の考え方	.263 *	.225	.200	.091
76. 自分の信念	.403 **	.346 *	.476 **	.207 *
77. 自分の信仰(無信仰)	.592 **	.432 **	.688 **	.326 **
【対人関係】				
78. 父との関係	-.041	.045	.036	.058
79. 母との関係	.698 **	.691 **	.699 **	.298 **
80. 兄弟(姉妹)の仲の良さ	.680 **	.661 **	.678 **	.282 **
81. 人に好かれる	.218 *	.283	.097	-.029
82. 異性にもてる	.067	-.038	.236	.048
83. 人に与える印象	.395 **	.224	.468 **	.056
84. 人間的魅力	.264 *	.328	.152	.010
85. 先輩に恵まれている	.121	.121	.146	.060
86. 友人に恵まれている	.247 *	.299	.125	-.050
87. 先生に恵まれている	.051	.029	.071	.053
【対人関係能力】				
88. リーダーシップ	.449 **	.483 **	.416 **	.223 *
89. 人前で話す	.317 **	.340 *	.302 *	.126
90. 人を説得する	.051	.082	.091	-.063
91. 人と打ち解ける	.158	.083	.147	.034
92. 人付き合いの良さ	.178	.003	.304 **	.109
93. 協調性	.062	-.073	.192	.063
94. 人の気持ちの理解	.333 **	.153	.401 **	.056
95. 人への思いやり	.137	.010	.173	-.015
96. やさしさ	.428 **	.569 **	.358 **	.081
97. 親切さ	.030	.054	.059	.058
98. 感情表現	.245 *	.157	.252	-.010
99. 感受性	.192	.222	.209	-.030
100. 家族に対する愛情	.315 **	.480 **	.165	.075
【知的能力】				
101. 理解力	-.115	-.232	-.051	-.089

	A. 「あなた自身」との相関			B. 変化との相関
	全体	男	女	
102. 判断力	.212 *	.090	.196	-.091
103. 表現力	.272 **	.131	.329 *	.046
104. 論理性	.063	-.069	.169	-.017
105. 創造力	.271 **	.161	.357 **	.080
【知的特性】				
106. 好奇心	.192	.115	.274 *	.158
107. 研究心・探究心	.299 **	.360 *	.291 *	.020
108. 向上心	.374 **	.363 *	.382 **	.183
109. 勉強心	.559 **	.579 **	.517 **	.198
110. 遊び心	.345 **	.409 *	.292 *	.095
【情緒的特性】				
111. 正直さ	.294 **	.253	.318 *	.065
112. 素直さ	.327 **	.234	.380 **	.093
113. 活発さ	.160	.085	.154	.206 *
114. 立ち直りの早さ	.478 **	.516 **	.473 **	.167
115. 適応力の高さ	.327 **	.436 **	.227	.137
116. 楽天的	.445 **	.529 **	.410 **	.244 *
117. 明るい	.204	.350 *	-.006	-.104
118. 自分の性格	.426 **	.526 **	.396 **	.150
【意志的特性】				
119. 計画性	.080	-.051	.188	.084
120. 集中力	.193	.156	.218	-.048
121. 忍耐力	.256 *	.278	.275 *	.069
122. 持久力	.370 **	.295	.436 **	.151
123. 粘り強さ	.330 **	.315	.391 **	.012
124. 行動力	.317 **	.320	.367 **	.102
125. 決断力	.110	.071	.101	.074
126. 努力	.382 **	.444 **	.382 **	.097
127. 欠点の自覚	.384 **	.437 **	.361 **	.011
128. 積極性	.368 **	.408 *	.358 **	.096
129. 責任感	.195	-.033	.370 **	.084
130. 時間の使い方	.296 **	.284	.272 *	.021
131. 時間を守る	.403 **	.453 **	.348 **	.121
132. 約束を守る	.316 **	.340 *	.338 *	.116
133. 負けず嫌い	.407 **	.568 **	.325 *	.248 *
134. 意志の強さ	.350 **	.228	.410 **	.236 *

4. 「自己自信イメージ」と高い相関を示す「事象自信イメージ」間の相関

表8は、全体(男女計)での「自己自信イメージ(2回目)」と諸事象134との相関が0.400以上であった26項目について、その相互の相関係数を示したものである。この相互相関は全部で325の組み合わせになるが、このうち9(2.8%)の組み合わせだけが1%の有意水準に達せず、他の316(97.2%)の組み合わせはすべて1%の有意水準のものであった。

表9は、表8に基づいて、各項目が他の25項目との間で示す相関の区分ごとの頻度である。r=0.50以上で見ると、頻度の高いものは、「79. 母との関係」(頻度13)、「9. 身長」(11)、「77. 自分の信仰(無信仰)」(9)、「80. 兄弟(姉妹)の仲の良さ」(7)、「21. 酒を飲む」(7)、「66. 自分の過去」(7)、「20. 徹夜で仕事(勉強)」(7)であり、これをr=0.40以上で見ると、「79. 母との関係」(頻度20)、「9. 身長」(19)、「大学の成績」(19)、「17. すぐ眠れる」(18)、「77. 自分の信仰(無信仰)」(18)、「80. 兄弟(姉妹)の仲の良さ」(16)、「20. 徹夜で仕事」(15)であった。

5. 「自己自信イメージ」の変化と事象134の「自信イメージ」との相関

表7のB欄は、「自己自信イメージ」の1回目から2回目への変化を「2回目-1回目」として数量化し、事象134の「自信イメージ」評定との間での相関を求めたものである。

この相関係数の算出は、次のような予想のもとで行われたものである。

- ① 1回目の「自己自信イメージ」は、それなりの「自信イメージ」ではあるが、被験者にとっては、ばくぜんとしたものでもあった。
- ② 2回目の「自己自信イメージ」は、その前に、134のより具体的な事象について被験者本人の「自信イメージ」を分析的に評定した後であるので、1回目よりもより明確で自覚的なものである。このことは、前記3での検討結果からも肯定できる。
- ③ 1回目から2回目への変化が、その間に実

施した134の事象についての「自信イメージ」評定の影響であるとしても、134の全事象が、平均して変化に影響したとはいえないであろう。むしろ、被験者は、被験者の「自己自信イメージ」にとっての重要性に応じて、影響を受ける度合いが大きいと考えることができる。

④ある事象が被験者にとって重要である場合には、その事象に「自信がある」とした被験者は、2回目の「自己自信イメージ」も「自信がある」とするであろうし、逆に事象に「自信がない」とした場合には「自己自信イメージ」を「自信がない」とするであろう。このような傾向は、当該事象に対し多くの被験者がその重要性を認めれば認めるだけ顕著になるであろうし、その重要性を認めなければ、あまり見られないであろう。このことは、相関の有無であり、かつ相関係数が高い程、多くの被験者にとって、当該事象が重要だと認められているということになるであろう。

結果は、1%水準で有意な相関を示した項目は、24項目で、そのうち、17項目は、表7のAで「かなり高い相関」を示した26項目と一致するものであった。また、残りの7項目も、1項目を除く6項目は、表7のAで1%水準で有意な相関を示す項目であった。

考 察

1. 全体としての自己に対する「自信」

「自信」は人生を力強く生きて行くに当たっての重要な感情状態(イメージ)であるが、調査結果は、文教大学(越谷キャンパス)学生が、強い自信にうらづけられて学生生活を送っているとは言えないことを示すものであった。また、このことは、特に女子学生において言えることであった。これは、まず第1に、「あなた自身」に「かなり自信がある」とする者が、2回目においても、全体の11.5%にしかすぎないことで、男子学生でも22%で、女子学生にいたっては、わずか5%だけであった。第2に、全体としての自己に対する「自信」は、1回目から2回目にかなり変化し、より「自信がある」方

向に動いたが、この変化もまた、1回目の「自信」が、日常の漠然としたイメージを反映しているものであると考えるならば、いろいろと分析してみたら（すなわち、具体的な134の諸事象を考えてみたら）もっと「自信」をもってよいと思直したということであり、日常生活の中での意識としては自己に対する「自信のなさ」を示すものである。この変化は、「自信がある」方向と「ない」方向とへの両方が見られたが、両方向あわせて、男子学生で3割強、女子学生では4割を越え、このように「自信」が変化するのは、「自信のなさ故」と言わざるを得ない。

2. 「自信がある」事象と「ない」事象

学生が「自信がある」とする事象は、表5にまとめたものであるが、その特徴は、「高校・中学・小学校の成績」など過去の結果や「先輩に恵まれている」「先生に恵まれている」「健康」「鼻」など環境や与えられたものであったり、「眠りの深さ」「好奇心」「協調性」などの自信がなくてもできる事象が多く占めていることである。これらの事象は、いずれも、「自己自信イメージ」との相関が低く、多くは0.200以下で、高くても0.300以下であった。このことは、本調査対象の学生の「自信がある」事象が、全体としての自己に対する「自信」とあまり関係をもたないということであり、学生の「自信のなさ」をうらづけるものであると言えよう。

また、学生が「自信がない」とする事象は表6にまとめたが、「嫌な事は厭と言える」「人と打ち解ける」「人への思いやり」「友人に恵まれている」「人間的魅力」「リーダーシップ」などは実生活においてかなり重要なことであり、また「自分に誠実」「勉強心」も人生を積極的に生きるに当たって欠かせない事象であり、これらに「自信がない」のは、問題である。

この「自信がある」「ない」を、全体としての自己の「自信イメージ」との相関の“かなり高い”26項目についてみると、平均値がマイナスの項目が10項目（38.5%）、0.00

～0.20が7項目（26.9%）、～0.50が5項目で残る4項目のうち、最も高い平均で0.71であった。このことは、「自己自信イメージ」と関係の深い26項目に「かなり自信がある」とする学生の少ないことを示すもので、これもまた、本調査対象学生の「自信のなさ」をうらづけている。

3. 「自己自信イメージ」と諸事象の「自己自信イメージ」に対する影響

3.1. 諸事象の「自信イメージ」の「自己自信イメージ」に対する影響

本研究は、“全体としての自己に対する「自己自信イメージ」（自己自信イメージ）は具体的な諸事象に対する「自信イメージ」の総合として成立する”を前提とするものであった。そのため、本研究における調査の流れを、①「自己自信イメージ」の調査（1回目）、②具体的な諸事象134に対する「自信イメージ」の調査、③「自己自信イメージ」の再調査（2回目）として設定し実施した。この結果、表3に見るように、②の具体的諸事象134に対する評価を行う前の「自己自信イメージ」（1回目）と後の「自己自信イメージ」（2回目）とでは、かなり大きい変化（プラス・マイナスの変化を合わせて37.7%）が見られ、結果の3に述べたように、具体的諸事象134の評価が、「自己自信イメージ」の1回目よりむしろ2回目とより関連を持つこと、すなわち、変化が、諸事象に対する「自信イメージ」評価に影響されていることが明らかになった。このことは、本研究の前提を支持するものであった。

3.2. 「自己自信イメージ」に強く関連する事象とあまり関連をもたない事象

表7-Aに示されたように、134の事象のうち94項目（70.1%）は0.20以上の相関を示し、そのうちの92項目（68.7%）は有意水準1%の相関であった。このことは、本研究で用意した事象の多くが、「自己自信イメージ」と有意に関連する事象であったことを示している。

また、一般に“かなり高い相関”を示すと考えられている $r=0.40$ 以上の事象は26項

目を数えることができた。この26項目は、
結果の3.1および表8・表9に示す通りであ
るが、「自己自信イメージ」に強く関連し、

日常的に意識する「自己自信イメージ」の成
立に影響を与えていると考えることができる。
これに対し、本研究で用意した事象の中で、

表8. 26の事象間の相関

	4.	9.	11.	17.	18.	20.	21.	22.	38.	45.	56.	58.	61.
4. 顔	1.00												
9. 身長	.44	1.00											
11. 後ろ姿	.21	.55	1.00										
17. すぐ眠れる	.43	.48	.36	1.00									
18. どこでも眠れる	.50	.52	.38	.55	1.00								
20. 徹夜で仕事(勉強)	.31	.53	.40	.39	.50	1.00							
21. 酒を飲む	.38	.50	.41	.70	.52	.43	1.00						
22. 食欲(食べること)	.13	.48	.45	.42	.35	.55	.36	1.00					
38. 好きなスポーツの知識	.13	.32	.29	.44	.27	.37	.49	.26	1.00				
45. 大学の成績	.42	.68	.45	.46	.46	.55	.37	.44	.30	1.00			
56. 運動神経	.28	.61	.39	.37	.40	.47	.31	.44	.27	.46	1.00		
58. 自分の才能	.42	.46	.32	.66	.49	.31	.64	.29	.45	.32	.35	1.00	
61. 高校時代の自分	.20	.41	.40	.31	.29	.35	.30	.51	.11	.41	.22	.30	1.00
66. 自分の過去	.22	.55	.35	.35	.34	.53	.32	.62	.48	.48	.59	.34	.37
76. 自分の信念	.41	.53	.36	.48	.44	.39	.37	.35	.24	.47	.43	.37	.29
77. 自分の信仰(無信仰)	.35	.61	.43	.50	.49	.45	.48	.51	.27	.59	.50	.46	.36
79. 母との関係	.24	.57	.50	.45	.38	.58	.50	.65	.33	.57	.44	.46	.68
80. 兄弟(姉妹)の仲の良さ	.23	.70	.46	.46	.41	.49	.35	.51	.44	.56	.62	.48	.34
88. リーダーシップ	.29	.37	.33	.42	.33	.44	.37	.41	.17	.41	.29	.41	.40
96. やさしさ	.35	.45	.43	.66	.53	.37	.61	.36	.47	.42	.36	.50	.23
109. 勉学心	.24	.36	.25	.30	.33	.54	.27	.43	.29	.36	.30	.33	.34
114. 立ち直りの早さ	.31	.39	.32	.49	.39	.39	.50	.34	.35	.41	.18	.49	.38
116. 楽天的	.23	.32	.34	.41	.30	.41	.40	.49	.23	.40	.21	.36	.49
118. 自分の性格	.16	.43	.30	.48	.41	.42	.42	.30	.25	.43	.33	.47	.29
131. 時間を守る	.20	.31	.25	.38	.27	.33	.29	.37	.36	.39	.20	.23	.34
133. 負けず嫌い	.23	.40	.30	.43	.36	.39	.42	.39	.13	.35	.33	.45	.38
	66.	76.	77.	79.	80.	88.	96.	109.	114.	116.	118.	131.	133.
56. 自分の過去	1.00	.39	.51	.56	.63	.34	.32	.37	.39	.33	.36	.40	.23
76. 自分の信念		1.00	.52	.37	.37	.22	.40	.22	.30	.30	.38	.21	.36
77. 自分の信仰(無信仰)			1.00	.55	.58	.40	.40	.38	.33	.38	.47	.32	.42
79. 母との関係				1.00	.60	.48	.43	.49	.50	.54	.40	.39	.58
80. 兄弟(姉妹)の仲の良さ					1.00	.36	.46	.37	.43	.30	.42	.31	.35
88. リーダーシップ						1.00	.37	.55	.41	.37	.36	.37	.39
96. やさしさ							1.00	.28	.43	.37	.37	.25	.34
109. 勉学心								1.00	.38	.36	.28	.39	.36
114. 立ち直りの早さ									1.00	.34	.45	.27	.36
116. 楽天的										1.00	.35	.33	.39
118. 自分の性格											1.00	.31	.49
131. 時間を守る												1.00	.22
133. 負けず嫌い													1.00

表 9. 26項目の相互相関の区分別頻度

	相関係数の区分						～0.5 累計	～0.4 累計	あなた自身 との相関
	～0.6	～0.5	～0.4	～0.3	～0.2	～0.1			
4. 顔	0	1	5	5	10	4	1	6	.413
9. 身長	4	7	8	6	0	0	11	19	.688
11. 後ろ姿	0	2	8	11	4	0	2	10	.463
17. すぐ眠れる	3	2	13	7	0	0	5	18	.429
18. どこでも眠れる	0	6	7	9	3	0	6	13	.613
20. 徹夜で仕事(勉強)	0	7	8	10	0	0	7	15	.701
21. 酒を飲む	3	4	7	9	2	0	7	14	.456
22. 食欲(食べること)	2	4	8	8	2	1	6	14	.608
38. 好きなスポーツの知識	0	0	6	6	9	4	0	6	.454
45. 大学の成績	1	4	14	6	0	0	5	19	.658
56. 運動神経	2	2	6	8	5	2	4	10	.532
58. 自分の才能	2	1	11	9	2	0	3	14	.433
61. 高校時代の自分	1	1	5	11	6	1	2	7	.420
66. 自分の過去	2	5	3	13	2	0	7	10	.669
76. 自分の信念	0	2	6	12	5	0	2	8	.403
77. 自分の信仰(無信仰)	1	8	9	6	1	0	9	18	.592
79. 母との関係	3	10	7	4	1	0	13	20	.698
80. 兄弟(姉妹)の仲の良さ	4	3	9	8	1	0	7	16	.680
88. リーダーシップ	0	1	9	11	3	1	1	10	.449
96. やさしさ	2	2	9	9	3	0	4	13	.428
109. 勉強心	0	2	2	14	7	0	2	4	.559
114. 立ち直りの早さ	0	2	7	14	1	1	2	9	.478
116. 楽天的	0	1	6	15	3	0	1	7	.445
118. 自分の性格	0	0	12	9	3	1	0	12	.426
131. 時間を守る	0	0	1	14	8	2	0	1	.403
133. 負けず嫌い	0	1	6	14	3	1	1	7	.407

「自己自信イメージ」とあまり関係をもたないものは、負の相関を示した3項目と、 $r=0.20$ 未満の36項目をあげることができる。特に、 $r=0.10$ 未満のものは、少なくとも本研究の被験者学生にとっては、関係をもたないと考えることができる。それらは、「29. 専門の知識」「48. スキー」「68. 嫌な事は厭と言える」「78. 父との関係」「82. 異性にもてる」「87. 先生に恵まれている」「90. 人を説得する」「93. 協調性」「97. 親切さ」「104. 論理性」「119. 計画性」の12項目であった。これらはまた、1回目の「自己自信イメージ」とも有意な相関を示さなかった。

以上は、全体(男女別)を主とする結果であるが、表7-Aに見るように、「自己自信

イメージ」と事象との関連には、男子学生と女子学生に違いもまた見られる。特に違いの顕著なものは、結果の3.2のタイプで④に分類されるものである。

まず、女子学生にとって関連が強く男子では関連の弱い事象は、「2. 鼻」「7. 胸(バスト)」「11. 後ろ姿」「12. 自分の肌」などの【身体・外見】に属するもの、「23. 脚力(歩くこと)」「24. 健康」「25. 体力」などの【健康・体力】に属するもの、「38. 好きなスポーツに関する知識」「44. 高校の成績」「51. 得意なスポーツ」「55. 自分の特技」「60. 中学校時代の自分」「63. 文教大に来たこと」「67. 失敗を恐れない」「83. 人に与える印象」「92. 人付き合いの良さ」であった。

これに対し、男子学生において関連が強く女子では関連の弱いものは、「28. 自分の生命力」「43. 中学校の成績」「100. 家族に対する愛情」「115. 適応力の高さ」である。

これらの男女の違いのある事象を通して言えることは、女子では男子に比べ【身体・外見】や「人に与える印象」などが実際にも問題となり、それだけ「自己自信イメージ」に関連してくること、また、男子では、むしろ普通である【健康・体力】や「スポーツの知識」「特技」や「失敗を恐れない」「人付き合いの良さ」など日常的に当然要求される事象が、女子では一般的でないだけに、「自信」に強く関連するのではないかと推測される。この反対に、男子では関連を示し女子では関連の弱い「自分の生命力」「家族に対する愛情」「適応力の高さ」は、むしろ女子にとっては、普通の常識であるがために、関連を示さないものと推測できる。

4. 「自己自信イメージ」にとっての中核となる事象について

①前3.1において、「自己自信イメージ」と強い関連を有する事象として、 $r=0.400$ 以上の「かなり高い相関」を示す事象26を考えたが、表8に示した26項目間相互の相関係数が、その組み合わせ352のうち316(97.2%)において1%水準で有意な相関の見られることは、この26項目が相互に関連を持ち合い総合して「自己自信イメージ」と関連していることを示すものである。

②また、表9は、この26項目の中で、さらに中核となる事象を明らかにするために、各項目が他の25項目の間で示す相関の区分毎の頻度を求めたものである。それは、一般に、他と高い相関を多く示すものほど、中心的・中核的なものと考えられるからである。結果を総合して、少なくとも次の12の事象は「自己自信イメージ」との関連において中核的な事象と考えることができる。

「79. 母との関係」

「9. 身長」

「77. 自分の信仰（無信仰）」

「80. 兄弟（姉妹）の仲の良さ」

「21. 徹夜で仕事（勉強）」

「20. 酒を飲む」

「66. 自分の過去」

「45. 大学の成績」

「17. すぐ眠れる」

「22. 食欲（食べること）」

「18. どこでも眠れる」

「58. 自分の才能」

③さらに、表7-Bは、「自己自信イメージ」の1回目から2回目への変化が、その事象の被験者にとっての重要性和関連することを指標と考え、相関を計算したものであるが、1%水準で有意な相関を示した事象の中で表9の26項中と一致するものは次の事象(17)であった。

「11. 後ろ姿」

「77. 自分の信仰（無信仰）」

「9. 身長」

「18. どこでも眠れる」

「79. 母との関係」

「56. 運動神経」

「45. 大学の成績」

「80. 兄弟（姉妹）の仲の良さ」

「58. 自分の才能」

「20. 徹夜で仕事」

「133. 負けず嫌い」

「116. 楽天的」

「88. リーダーシップ」

「61. 高校時代の自分」

「17. すぐ眠れる」

「76. 自分の信念」

「22. 食欲（食べること）」

④結論として本研究においては、②の「自己自信イメージ」との相関および事象間の関連と、③の被験者の変化に影響を与える重要な事象という2つの視点から考えて、②と③の一致する事象を、「自己自信イメージ」にとっての中核的事象としたいと考える。それは、再掲すれば、次の10の事象である。

• 母との関係

• 身長

- 自分の信仰（無信仰）
- 兄弟（姉妹）の仲の良さ
- 徹夜で仕事（勉強）
- 大学の成績
- すぐ眠れる
- 食欲（食べること）
- どこでも眠れる
- 自分の才能

5. 「自己自信イメージ」を支える諸事象間の関連

図8は、因子分析のバリマックス解による事象26のまとまり具合を基礎にしながら、事象間の相関によって、相互の関連を図示したものである。

この結果から明らかなことは、さまざまな事象が相互に複雑に関連し合っていることで

ある。その中でも最も多くの事象との関連を示すのは、「79. 母との関係」である。

例えば、「母との関係」に自信がある者は、「自分の過去」にも、「食欲」にも、また「兄弟（姉妹）の仲の良さ」「大学の成績」「自分の信仰（無信仰）」にも自信があり、さらに「負けず嫌い」や「立ち直りの早さ」「楽天的」であることにも自信を持っており、「徹夜で仕事（勉強）」にも自信があり、そして、どのように関連するのか解釈・推論しにくいのが、「身長」や「後ろ姿」などにも自信を持つ可能性の高いことが示されている。そして、この「母との関係」と関連を持つ事象は、さらに他の多くの事象と複雑な関連を持ち、それらが全体として、「自己自信イメージ」の自信につながっているのである。図

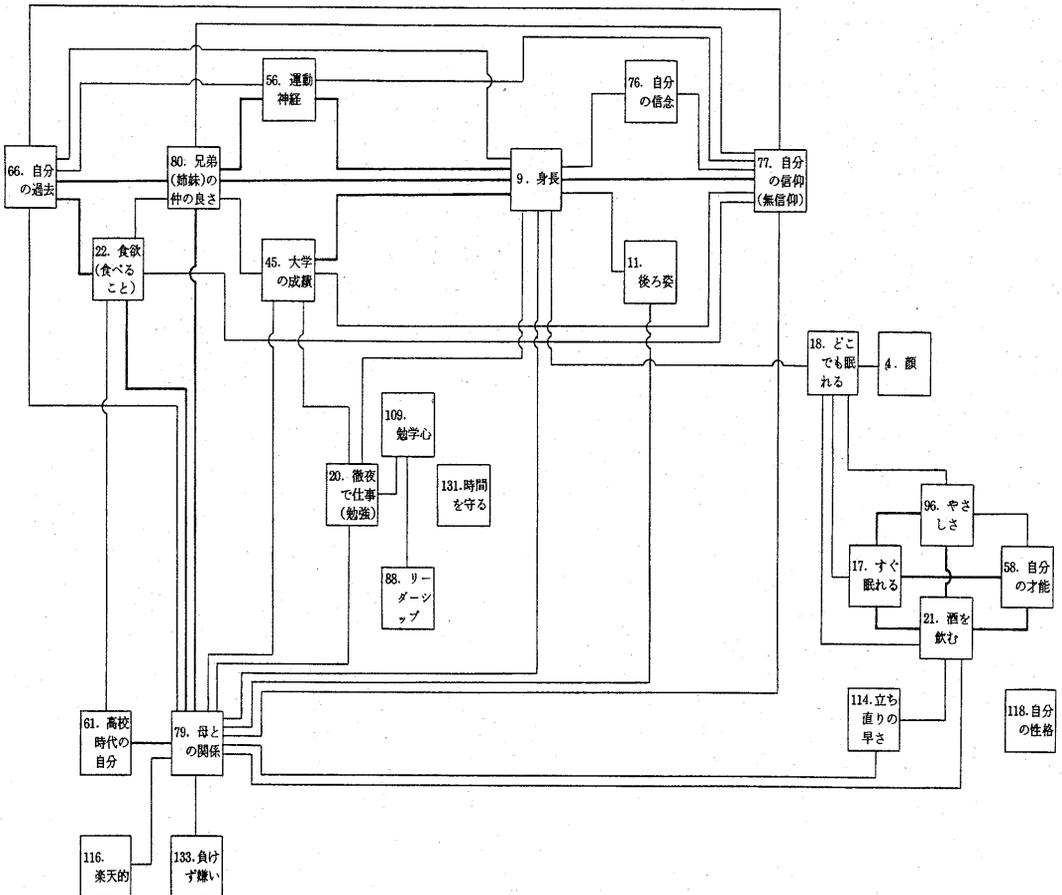


図8 26の事象の相互関連図（但、 $r=0.50$ 以上）

8の結果は、あくまでも相関をもとにしているので、必ずしも因果関係を示すものではないが、少なくとも、それらの相乗作用として、全体としての自己に対する「自信イメージ」を形成しているものと考えられる。

ところで、この「母との関係」の「自信イメージ」に占める重要性に比べ、本図にはないが、「父との関係」が「自己自信イメージ」とにほとんど関連を持たないことは、述べられて良いであろう。表7-Aに見るように「父との関係」は「自己自信イメージ」との無相関を示した。また、父も母と共同して同じ家族・家庭を構成する重要な一人であるにも拘わらず、「母との関係」との相関は0.004と無相関であり、「父との関係」が有意な相関を持つのは、134項目の中で「自分の生き方」「好きな音楽・映画・演劇・絵などに関する知識」と「文教大に来たこと」のわずか3項目にすぎなかった。学生の意識の中に占める「父」と「母」の違いを示すものとして注目に値することである。

おわりに

本研究において、まず第1に明らかになったことは、被験者である文教大学（越谷キャンパス、人間科学部学生中心）学生の、全体

としての自己に対する「自信イメージ」は、総体的には「自信のなさ」として特徴づけられるということであった。第2には、その「自己自信イメージ」が、さまざまな諸対象の「自信イメージ」と関連し、それらの諸対象に対するイメージの総合として「自己自信イメージ」が形成されることを一定程度示すことができた。また、第3には、学生を対象に考えた場合の（厳密には本研究の被験者の場合ではあるが）「自己自信イメージ」と関連の深い中核的な事象のいくつかを明らかにすることができ、なかでも「母との関係」がかなり決定的であることを示すことができたことである。

しかしながら、本研究において意図した決定因としての諸事象間の関連については、因子分析の解釈も含めほとんど明らかに出来なかったこともまた事実である。今後、項目の選定を含め被験者の数の問題も合わせ、さらに研究を進めていく所存である。

（追記）本研究は、1990年度卒業論文のテーマとして、筆者の指導により取り組んだ、柄沢里美さんのデータの一部をお借りして、新たな視点で分析しなおしたものである。柄沢里美さんには記して感謝する次第である。